

## タイトル

c1240227 五十嵐若菜

学外の人に羨ましいと思われるようなカフェテリアにするには

現状です。東北公益分科大学には気軽に学習できるスペースがたくさんあります。その一つとしてカフェテリアには食事、談話、課題、暇つぶしなど使用用途が人それぞれです。学外の人に羨ましいと思われるカフェテリアにするために、私は他大学の友達を対象にしてインタビューをしました。質問内容は1、現在利用している学習スペースの利点と欠点 2、理想の学習スペースの特徴 3、必要な設備やサービス 4、一日の学習スケジュールと学習時間 この四つの質問をしました。結果として、快適で静かな環境が求められる。高速インターネットや充電設備の充実が必要。飲食や飲み物の提供が求められる。集中スペースと交流スペースの分離が重要。自然光がはいる明るい空間が好まれることでした。

このインタビューを通して、友達の顕在的ニーズは、静かに集中できる環境。快適な空間と適切な照明。充実したインフラ（Wi-Fi、充電設備）です。潜在的ニーズは、リラックスしながら学習できる雰囲気。自然光が入る明るい空間。飲食や飲み物の提供。社交やリフレッシュのためのスペース。24時間利用可能な環境です。課題定義は「学外の人にとて羨ましいと思われるような、集中とリラックスを両立できる、快適で多機能な学習スペースを提供すること。」

現在の大学の学習スペースは二極化していると感じます。静かな空間は図書館、ラーモンズ、共同研究室、本気の学習室が当てはまります。また、騒がしい空間はカフェテリアが当てはまります。よって程よい環境の学習スペースがないことです。これらを改善するために下記の提案をいたします。私が考えるプロトタイプの提案は、コンセプト「オアシスのような学習空間」です。特徴として、一つ目は、ゾーニング：静かな集中ゾーンとリラックスゾーン、カフェスペース、交流ゾーンに分けることです。二つ目は、インテリア：自然光を取り入れ、植物を配置したナチュラルなデザイン。木材と緑を特徴とした落ち着いた雰囲気にすることです。設備は、高速 Wi-Fi と多数の電源コンセント。調光可能な LED 照明。小規模なミーティングルームや防音ブース。そして 24 時間利用可能にすることです。

期待される効果として、まず利用者の満足度向上です。快適な学習空間により、学習効率が向上します。そしてリラックスできる環境でストレスが軽減されます。次にコミュニティーの形成です。学習者同士の交流が促進され学術的なネットワークが広がります。次に大学の魅力向上です。学外の人からも羨まれるスペースとなり大学のブランディングに貢献します。そして、学生募集や学術交流の機会が増加するでしょう。最後に健康への配慮です。自然光と植物により、精神的な健康もサポートすることができます。

## 具体的なイメージ

- ・エントランスから広がるオープンな空間に、自然光が差し込む大きな窓が並ぶ。
- ・静かな集中ゾーンには個別の学習ブースや防音ルームが配属され、リラックスゾーンにはソファやラウンジチェアが用意されている。

・交流ゾーンでは学生同士のディスカッションやグループワークが活発に行われ、インスピレーションがうれます。

このようなプロダクトは生徒にとって学習の質を高め、学外の人々にとっても魅力的なスペースとなり、大学全体のブランド向上力にも繋がるでしょう。